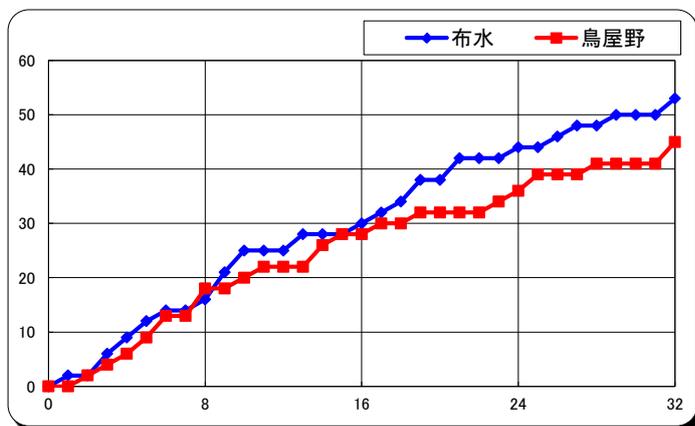




THE 44th ALL ALL JAPAN  
Jr HIGH SCHOOL

大会名	平成26年度全国中学校体育大会 第44回 全国中学校バスケットボール大会																
会場	高松市総合体育館																
日時	平成26年8月25日(月) 9:00																
コート	T Bコート	第1試合															
カテゴリー	男	準決勝															
主審	山田 豊弘	(本部)															
副審	藤代 透	(東京)															
副審	石川 淳也	(大阪)															
Team A		Team B															
布水	53	45 鳥屋野															
石川	○	新潟 ●															
	<table border="1"> <tr><td>16</td><td>1st</td><td>18</td></tr> <tr><td>14</td><td>2nd</td><td>10</td></tr> <tr><td>14</td><td>3rd</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>4th</td><td>9</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table>	16	1st	18	14	2nd	10	14	3rd	8	9	4th	9		OT		
16	1st	18															
14	2nd	10															
14	3rd	8															
9	4th	9															
	OT																

【得点経過】



【BOXスコア】

Team A	布水						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則
4	中藪 柊	DNP	0	0	0	0	0
5	大倉 颯太	×	28	0	13	2	3
6	北方 裕也	×	15	0	7	1	0
7	中道 滉	/	0	0	0	0	0
8	佐野 良也	DNP	0	0	0	0	0
9	清水 宏記	×	3	0	0	3	2
10	辻本 真都	×	2	0	1	0	1
11	萩原 太郎	DNP	0	0	0	0	0
12	橋本 一輝	×	5	1	1	0	1
13	柿本 幸一	DNP	0	0	0	0	0
14	吉田加偉斗	DNP	0	0	0	0	0
15	小林 翔	/	0	0	0	0	0
16	森島 瑞樹	/	0	0	0	0	0
17	高木 健生	/	0	0	0	0	0
18	番場 望	/	0	0	0	0	1
監督	小田原 誠						0
コーチ	石過 祐樹						0
合計			53	1	22	6	8

Team B	鳥屋野						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則
4	平尾 剣弥	×	5	0	2	1	1
5	吉川 昇吾	/	2	0	1	0	4
6	吉田 韻希	×	20	0	10	0	2
7	石川 大夢	×	11	1	3	2	3
8	松本 うみ	×	2	0	1	0	5
9	鶴巻 魁	×	5	1	1	0	2
10	田野平剛志	DNP	0	0	0	0	0
11	石田 真大	DNP	0	0	0	0	0
12	祝 峻太郎	DNP	0	0	0	0	0
13	中島 凌河	DNP	0	0	0	0	0
14	小池 文哉	/	0	0	0	0	0
15	品川 廉椎	DNP	0	0	0	0	0
16	大滝 蘭真	DNP	0	0	0	0	0
17	田中 柊斗	DNP	0	0	0	0	0
18	石川 新	DNP	0	0	0	0	0
監督	堀 里也						0
コーチ	前田健太郎						0
合計			45	2	18	3	17

【戦評】

男子準決勝Bコートは、布水(石川)と鳥屋野(新潟)の北信越勢同士の対戦となった。1Q布水はハーフコートマンツウを主体とするDef、鳥屋野は、ゾーンプレスDefでスタートする。布水は、#6#5のシュートで先制する。一方鳥屋野も、#6のジャンプシュートや#9の3Pで対抗する。4分過ぎ布水の#12の3Pが決まり、布水5点リードとなったところで、鳥屋野がタイムアウトを取る。その後#6が連続ゴールを決めるなどし、7分過ぎに逆転し、布水16-18で1Qを終了する。2Qの立ち上がり、鳥屋野は、2本続けてパスミスをし、布水の速攻などで逆転を許す。その後一進一退の展開が続く。両チームともに激しいDefでインサイドをマークし、ファールがかさむ中、終了間際、布水#5のパスカットが決まり30-28で2Qを終える。

3Qになり、布水は#5のスピードあるドライブからのシュートなどでゲームを支配する。鳥屋野も#6の力強いプレーで対抗するが、3分過ぎに6点差をつけられタイムアウトを取る。しかし、布水の堅い守りに阻まれ3Qを布水44-36鳥屋野で終了する。4Qに入っても布水優位の流れは変わらず、4分過ぎに布水#5のシュートで9点差となる。鳥屋野もゾーンプレスをしかけ、激しくボールにアタックし、3Pシュートを多投するがなかなか決まらない。一方、布水は、落ち着いてリリードゲームを展開し、ボールをコントロールし続けた。布水53-45鳥屋野でゲームが終了。両チーム共によく鍛えられ、スピードとパワーあるレベルの高いプレーをした。布水が決勝に進出した。

【戦評記入者】

竹本 伸二